

米軍

普天間基地

“たらいまわし”は許さない！

移設ではなく無条件撤去を



「基地いらぬ」9万人を超える参加者で埋め尽くされた沖縄県民大会（4月25日）

沖縄県民大集会に9万人

25日、米軍普天間基地の無条件撤去を求める沖縄県民大集会には、9万人を超える県民が参加し、普天間基地の即時閉鎖・返還を求め、名護市辺野古やキャンプ・シュワブ陸上部、勝連半島沖などへの「たらいまわし」に拒否を突きつけました。

世界一危険・国際法違反の普天間基地

海兵隊の基地である普天間基地は、住宅密集地のど真ん中にあり、ヘリ等が一日数百回にわたり住宅地上空で旋回訓練を繰り返す、爆音被害と墜落の危険で市民を脅かしています。ラムズフェルド国防長官（当時）「こんな危険な基地は即時閉鎖しなければならぬ」と語ったほどです。

そもそも普天間基地は、沖縄戦において住民を収容所に入れていた間に、米軍が一方的に住宅や畑、墓地などをつぶしてつくったものです。占領における住民の財産没収を禁じているハーグ陸戦法規に反しており、本来、謝罪と賠償の上に無条件で返還されるべきものです。



海兵隊は平和を守る抑止力ではない

鳩山首相は、「海兵隊は日本防衛の抑止力」などと主張していますが、ワイバーガー国防長官（当時）が「沖縄の海兵隊は、日本の防衛に当てられていない」（1982年議会証言）と明言しているように、海兵隊は日本の防衛と無関係です。海兵隊は、ベトナム戦争、イラク戦争、アフガン戦争などで真っ先に投入された侵略の部隊です。戦争を禁じた憲法9条の立場からいっても、日本への駐留が許されない部隊です。

無条件撤去の対米交渉を直ちに

米兵の続発する凶悪犯罪、爆音などの基地被害に戦後65年間、沖縄県民は苦しめられてきました。沖縄県民は、いま島ぐるみで普天間基地返還、米軍基地の縮小を求めています。

鳩山首相は、行き詰った移転先を探しを断念し、普天間基地の無条件撤去にむけての対米交渉に直ちに取り組みべきです。